

子どもを中心に据えたまちづくり 地域の子どもたちは今？

- 20年前、岩野田北まちづくり協議会発足のきっかけとなったのは、子どもの教育に関する勉強会でした。「子どもたちをまちづくりの中心に」を合言葉に、そして出発点とし、そのためには地域が連携し、あらゆる分野においてより良い地域を育てることの必要性を確認し合ったのです。
- あれから20年。子どもたちを取り巻く環境は、どのように変化したのでしょうか。
- 一方で、各種団体等や高齢化や現役世代の地域活動の困難化などが、潜在化するまちづくりの課題、ひょっとすると顕在化している課題をも見過ごしているようなことはないでしょうか。
- まちづくりの分野のうち、子どもへの支援等活動は、ミッションとしているのは、青少年育成市民会議、PTA、子ども会、母子福祉会など各種団体が、また、社会福祉協議会や民生委員・児童委員協議会などが現状把握に努めています。まちづくり協議会では、発足以来、子どもたちの笑顔が見たい・・・と地域ぐるみで三世代交流“栗野の夏まつり”を開催してきました。
- 子どもを取り巻く今日的な社会課題は少なくないのが実情です(別添資料参照)。
しかし、個人情報をはじめ、個別の問題に踏み込んだ対応は、あらかじめ限界があります。行政の役割、学校の役割、NPO 法人の役割、そして地域の役割を検証しながら、地域にできる活動を改めて整理することも欠かせません。
- 地域の子どもたちと地域が連携する子育て等支援の現況を把握し、今後のまちづくりの在り方について、考えてみましょう。



学校だけでなく家庭・地域の教育支援が、PTA 創設の理念



青パトとあいさつ運動も見守りに資する活動



見守り隊の皆さん、ありがとう!!



児童による「ちょこっとお助け隊」の地域との交流活動



子ども食堂「One ぱくキッチン」



社協による福祉教育(この日は高齢者とのオンライン交流)



コミュニティカフェ・わおんによる学習支援と食事の提供



幼稚園や中学校も参加の公民館クラブ発表会で地域と交流



昨年の夏まつり(お化け屋敷)

※このほか、青少年育成市民会議による「親子ふれあい教室」のほか、「花餅づくり」はじめ各種団体の年間行事があります。また、学校との連携によるコミュニティスクールや通学路の指定など。

※コミュニティスクールほか、各種の活動に関する情報をお寄せください。

まちづくりサポートセンター講演会 (R7. 3. 1) の要旨と論点

●基調報告 若岡 ますみ氏 岐阜キッズな(絆)支援室

円徳寺を拠点に、てらこや無償塾(毎週土曜日・小から高校生対象)、子ども食堂(毎週土曜日・無償で昼食提供)、特別教室(ピアノ、そろばんなど)を開設するほか、はるかのひまわりプロジェクト参加など。

①

子どもの実情③ …子どもの貧困

最新数値:ひとり親世帯の令和3年の年間収入

- ・母子世帯の母自身の平均年間収入は 272 万円(1ヶ月の収入に換算すると月収22.6万円(手取り約18万円)
母自身の平均年間就労収入は 236 万円、
母子世帯の平均年間収入(平均世帯人員 3.18 人)は 373 万円となっている。
預貯金額は「50万円未満」が多数。半数近くが「貯金ゼロ」
- ・父子世帯の父自身の平均年間収入は 518 万円、
父自身の平均年間就労収入は 496 万円、
父子世帯の平均年間収入(平均世帯人員 3.41 人)は 606 万円となっている。

相対的貧困率は、
9 人に一人
(11.5%)

食品値上げへ 大幅前年超え、家計負担増
2022年に25,000品目
2023年に32,000品目
2024年に12,000品目が値上げ
→その一方で、
実質賃金が3年連続減少(2025.2.5)

300万円以下が
低所得者層31.8%
生活保護水準の
200万円以下(ワー
キングプア)18.5%

②

子どもの実情③ …子どもの貧困

2022年10月「シングルマザーサポート団体全国協議会」が全国のひとり親家庭に生活に関するアンケート調査。2767人から回答

- ・物価高騰で、米が買えない家庭56%、靴や衣服が買えない家庭78%、肉や魚などが買えない家庭が75%、親の食事を減らした62%、暖房を使わない、トイレを流さないなど必死の対処。

ひとり親のSOS

※岐阜県の回答者106人のうち

- ・「今年の四月以降で、家賃・電気料金・ガス料金・水道料金・携帯電話料金いずれかの支払を滞納したことがある」と回答したのは23人で21.6%。

※岐阜県の回答者で「暮らしのためにどのような工夫・対処をしていますか」との問いには

- ・「自分は食べない 電気を使わない」「電気を消し暗い生活をしている」
- ・「電気ではなく、ろうそくを使う。私はおかずを食べずにごはんやお茶でお腹を膨らませます。子供のノートは、使い終わっても、消しゴムで消してまた使わせる。」
- ・「スーパーでキャベツの外側が捨ててあるのでもらう」「布団などきて、寒さをしのぐ」
- ・「洗濯やガス(お風呂)は寒くなってきたので三日に一回にしている。」
- ・「とにかく節約出来ることはしています。休日前はシャワーも浴びません。汗をかいた時は髪の毛だけ洗う。洋服も何年も買っていません。穴があいても見えなければ着ている」
- ・「極力安いスーパーにはしごしたり、セール品や値段を少しでも抑えるよう、電気もあまり使用しないようロウソクにしたりして、使用量を出来る限り減らす。」
- ・「とりあえずパートなので、**出来る限り休みを取らず時給を稼ぐこと**、食費や日用品などの出費や自分の物は必要最低限にするなどしています。」

子どもの実情③ …子どもの貧困(食事)

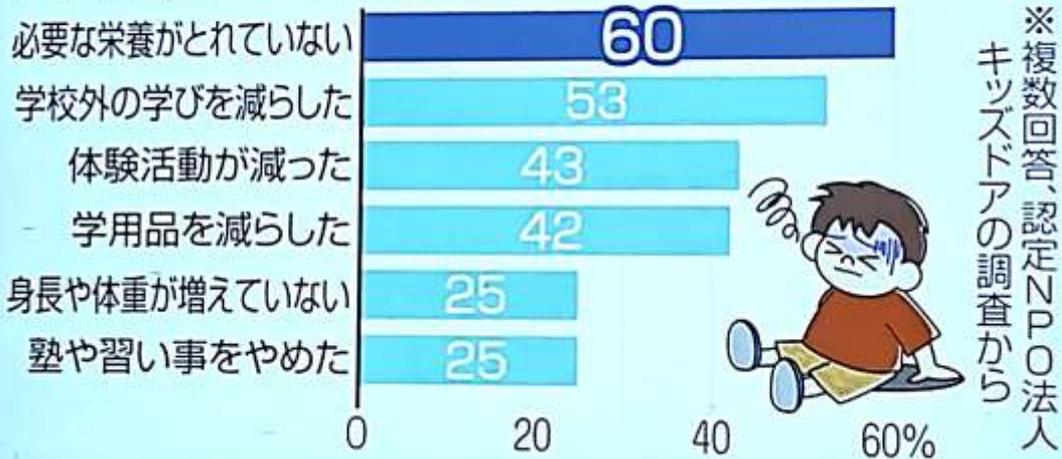
NPO調査「十分な食事与えられない」

困窮家庭の支援に取り組む認定NPO法人「キッズドア」が、5～6月に1538世帯から回答を得た調査では、8割が家計の状況は「とても厳しくなった」と答え、うち9割超が食費や光熱費の値上がりを実感。

夏休みに痩せる子
9割超が「夏休みの食事について不安」と答えた

ひとり親の34%は
1日2食以下

物価高騰などが困窮世帯の子どもの及ぼす悪影響



子どもの実情④ …ヤングケアラー

ヤングケアラーと思われる子どもの状況

幼いきょうだいの世話をしている



家族に代わり家事をしている



家計のためにアルバイト等をしている



ケアによって生じる制約について

宿題や勉強



友人と遊ぶ



睡眠



日分の時間



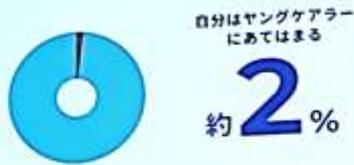
世話に費やす時間について



ヤングケアラーは、
17人に一人(中2で5.7%)

子どもの実情④ …ヤングケアラー

ヤングケアラーの認知度と自覚について



世話について相談した経験



学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

自分の現状について話を聞いてほしい



自由に使える時間がほしい



進路や就職など将来の相談にのってほしい



学校の勉強や受験勉強など学習のサポート



家庭への経済的な支援



特にない

SOSが出ない



10 20 30 40 50 (%)
● 中学2年生 ● 全日制高校2年生

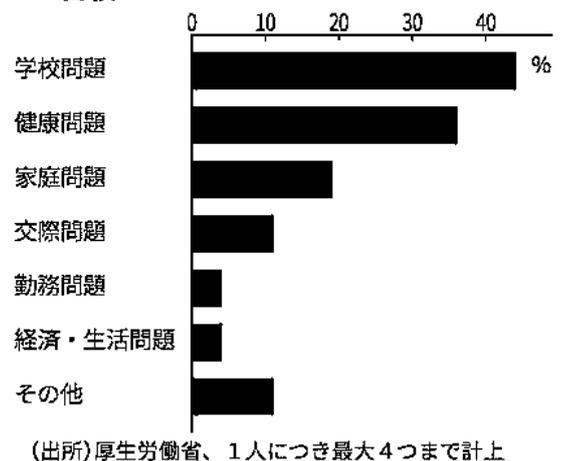
活動⑧～⑭

必要とされる様々な活動を柔軟に実施

- ⑧生活支援(引越し・生活の再建・ごみ屋敷の清掃)
- ⑨外国籍保護者への付き添い(役所・法テラス)
- ⑩生活用品・家電・制服などの収集と配架
- ⑪農作業(コロナ禍は中止)
- ⑫ピアノ・音楽教室・そろばん教室(コロナ禍は中止)
- ⑬絆奨学金(7年で生保大学生56人に給付)
- ⑭子ども・保護者の相談(24時間SOS相談)



自殺の10代までの原因・動機



※不登校は全国で 34 万人
 ※虐待は増加の一途
 ※小中高生の自殺は昨年過去最多 全国で 527 人